

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 三重県立木本高等学校

---

種 別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫教育  
 中学校       中高一貫教育       高等学校  
 教員養成       技術/職業教育  
 特別支援学校       その他 (                      )

所在地 〒519-4323  
三重県熊野市木本町 1101-4

---

E-mail hkimotad@hkimot.mie-c.ed.jp

---

Website http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/

---

児童生徒数 男子 261名      女子 308名      合計 569名  
児童・生徒の年齢 15歳～18歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (                      )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 【平成27年度の主な取り組み】

1. 「地域文化・歴史を学ぶ講演会」
2. 「防災プロジェクト」
3. 「熊野古道語り部育成プロジェクト」

#### 【詳細】

#### 1. 近隣地域において活躍されている方々の講演会 (「LHR」「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」での実施)

1年次生対象：「紀伊山地の霊場と参詣道」を中心とした世界遺産学習

##### ① 4/13 (月) 「熊野古道のお話」

講師：熊野古道語り部友の会 山川 雅史さん

内容：熊野古道を歩くコースの遠足の事前学習として、熊野古道の歴史や意義、世界遺産登録の経緯などについて学んだ。

##### ② 11/12 (木) 「熊野古道の持続可能な観光」

講師：「くまの体験企画」代表 内山 裕紀子さん

内容：熊野古道の案内をエコツーリズムの精神で企画・運営するに至った経緯と、事業のやりがいについてお話を伺った。

##### ③ 1/21 (水) 「古道を歩くということ」

講師：熊野古道センター長 川端 守さん

内容：「熊野三山」、「吉野・大峯」、「高野山」の3つの霊場と、これらを結ぶ「熊野参詣道（熊野古道）」、「大峯奥駈道」、「高野山町石道」からなる熊野古道を歩くことの意義について学んだ。

##### ④ 2/25 (木) 「熊野曼荼羅の絵解き」

講師：新宮市学芸員 熊野歴史研究会事務局長 山本 殖生さん

内容：熊野比丘尼が熊野三山の修復資金を勧進する手段として使った熊野曼荼羅の絵解きを通して、曼荼羅に込められたメッセージやエピソードを教わった。

2年次生対象：地域の文化や歴史等に関する学習

##### ⑤ 11/26 (木) 「佐藤春夫について」

講師：佐藤春夫記念館館長 辻本 雄一さん

内容：本校校歌の作詞者であり、また熊野市とも縁のある佐藤春夫の文学作品や、それに関わるエピソードを通して、佐藤春夫の人生観について学んだ。

## 2. 防災プロジェクト（総合学科 4 月 16 日・普通科 4 月 30 日に実施）

### 《目的》

1. 本校から熊野市駅のあいだで登下校時に大地震・大津波が来ることを想定して、どこへ避難したらよいか確認する。
2. 実際に歩いてみることで、避難する際に自信を持って行動できるようになる。
3. 危険な箇所がどこにあるかなど、自分で気付き、考えることで、臨機応変に行動できるようになる。
4. クラスメイトと一緒に考え、共感することで、呼びかけあいながら避難できる関係を築く。

### 《内容》

1. 5 限目各ホームルーム教室にて、地図を使った避難ルートの確認と説明  
※実際に避難する際の危険箇所などを探しながら歩く
2. クラスに分かれて、地図を見ながら木本高等学校～熊野市駅の通学路やその周辺の街歩きをする（各班で防災ノートに記入）  
（ルート：①校門周辺～高台～称名寺 → 1・2 班  
②かたおか書店～高台 → 3・4 班  
③ローソン～高台～郵便局 → 5・6 班  
④郵便局～陸橋・橋～市役所 → 7・8 班  
⑤記念通り商店街 → 9・10 班）
3. 各ホームルーム教室に戻り、各班で防災ノートの記入内容を整理
4. 後日、前回記入した防災ノートを見ながら、班ごとに発表

ホームルーム単位で街歩きをすることによって、自分一人だけでは発見できなかったような気付きを全体で共有することが出来た。避難経路や危険箇所をきちんと知っておくことは、自分たちの命を守るための第一歩であると考え、普段の登下校や学校生活においても周囲に気を配っておくことが大切だと感じさせる取組とした。

土砂崩れや津波の被害、家屋の倒壊や火災、停電、崖崩れなど、考えられる危険が数多く挙げられたが、危険の避け方として、すぐに高台に逃げることや、崩れそうな場所を予測しておいて、その場所には近づかないこと、消火器や A E D の位置などを確認しておくことなど、災害が起こる前の準備が肝要であることが、生徒の防災ノートでの気づきから明らかになった。今後も引き続き学校内外において防災意識を高める活動を推進していきたい。

## 3. 熊野古道語り部育成プロジェクト

### 《目的》

平成 16 年 7 月、「紀伊山地の霊場とその参詣道」がユネスコの世界遺産に登録され、本校の立地する地域にある「松本峠」「浜街道」「花の窟」等も登録入りした。

しかし一方では、熊野地域の過疎化や熊野古道の語り部さんの高齢化が進行しており、その中での熊野古道の保全是今後の重要な課題となっている。そのため本校では、国内外からの熊野古道観光者をガイドすることができ、世界遺産の文化的価値を次世代に継承できる後継者の育成を目的として、生徒による「熊野古道語り部育成プロジェクトチーム」を結成する取組を平成24年度から行っている。

今年度は4年目となり、昨年度と同じく熊野古道「松本峠」に関する学習を行い、三重大大学の留学生に対して日本語及び英語で松本峠をガイドする活動を行った。

#### 《内容》

##### (第一回) 事前学習と現地研修

1. 日時：平成27年12月13日（日）9：00～16：00
2. 場所：熊野古道松本峠、木本高校（生物第二教室）
3. 講師：小倉 元さん（紀南ツアーデザインセンター）
4. 参加者：木本高等学校 JRC 部員、ESS 部員、有志生徒 計12名  
木本高等学校教員及び有志職員 計5名

学校から最も近い熊野古道である「松本峠」について学習し、松本峠のガイドができるようになることを目標として実施した。

熊野古道についてのDVDを視聴し、改めて理解を深めた後、紀南ツアーデザインセンター（紀南を旅する人のためのビジターセンター）に勤めている小倉元さんの案内で、実際に松本峠を大泊側から歩いた。ガイドの際には、生徒がガイドを行う時に配慮しなければならないことや、観光客への説明のポイント、質問への答え方などを詳しく教えて頂いた。

そして帰校後、各自でガイド説明文を考え、それを使って、全員の前でガイドのデモンストレーションを行った。それぞれ熊野古道の写真をスライドで映し、身振り手振りを交えて実際の場所でガイドを行っているようにプレゼンテーションをした。

終了後、生徒は、「熊野の地域をより深く知ることが出来て、もっと好きになった」、「観光客がまた熊野に来たくなるようなガイドをしたい」などと話し、今後の取組に向けて意欲的な姿を見せていた。

##### (第二回)

1. 日時：平成28年1月24日（日）9：00～16：00
2. 場所：熊野古道松本峠、鬼ヶ城、花の窟神社、獅子岩、紀南ツアーデザインセンター
3. 参加者：木本高等学校 JRC 部員、ESS 部員、有志生徒 計14名  
三重大学学生（留学生含む） 計30名  
三重大学ユネスコクラブ（代表者は教育学部技術・ものづくり教育講座：松岡守教授） 計5名

第一回目で語り部さんから学んだガイドとしての心構えやヒントを踏まえ、海外からの留学生を含む三重大生に対して、日本語と英語で松本峠のガイドを行っ

た。生徒たちは、英語ガイド班と日本語ガイド班（日本人参加者及び日本語が理解できる留学生が対象）の二班に分かれ、ガイドする箇所を分担した上で熊野古道の特徴や歴史などを説明した。

実際のガイドにおいては、最初は緊張している様子であったが、時間が経つにつれ年齢や国籍に関係なく積極的にコミュニケーションを取り、一人ひとりが準備と練習を重ねてきた成果を存分に発揮し、予想外の質問に対しても一生懸命説明する姿が見られた。また、日本人同士のやり取りにおいても、自分たちの地域に関する質問などに真摯に答えようとする様子が見られ、生徒たちの説明に対して歓声や拍手が起こる場面もあった。

午後からは、三重大生とともに熊野市内の観光地を回り、三重大生や地域の方々との交流を図った。

生徒は、「初めて留学生の皆さんに会ったときは緊張や戸惑いもあったけれど、練習のおかげで楽しくガイドすることが出来た」、「もっと英語がうまく話せたら、もっと留学生との交流が出来たのに…」と勉強への意欲がより一層沸いてきたなどという感想を楽しそうに語っていた。

この熊野古道プロジェクトでは、文化遺産というものは、人が守り、人が伝えていくものであるということに改めて実感することができた。

#### 【まとめ】

各プロジェクトに参加して様々な人と関わり合うことで、生徒の実践的な活動への意欲が高まったように思われる。「過疎が進行している地域ではあるが、進学や就職で離れても、またいつか熊野の地に戻り、この地域のことを国内外に発信していきたい」という生徒の声が印象的であった。

今後本校では、地域の方々との繋がりを大切にしながら、世界遺産、防災、環境に関して生徒たちが学ぶ機会を持ち、その成果の発信をサポートしていきたい。また、生徒から「今後もこの活動を続けていきたい」という言葉があったように、一度きりのイベントではなく、持続的な学習として各プロジェクトを行っていき、生徒たちが「熊野」という地域と生徒たちが関わっていけるようにしたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
  - 時間外活動の時間を使用
  - ユネスコクラブの活動として実施
  - その他（
- ）